

## 第二回 国土のモニタリング研究会議事概要

1. 日時 平成14年9月3日(火)午後3時~5時
2. 場所 3号館11階共用会議室
3. 出席委員 森地座長、石田委員、城所委員、瀬古委員、中村委員
4. 議題

### (1)国土のモニタリング計画の検討

### (2)国土のモニタリングの実施と分析(人口・機能の集中・分散、圏域形成、地域の活力)

## 5. 主な意見

### (1)国土のモニタリング計画の検討

- ・ 政府等の先駆的なよい指標が国民の目に触れていないケースが多い。有用なデータがどこに存在し、どう関連づけて活用すべきかという観点で、データストックを整理していくことが、モニタリングのシステムを設計する際に重要。
- ・ 地域の特性や個別事例、計画を踏まえたモニタリングもする必要があり、そのための地方自治体の巻き込み方を考えるべき。特に、国土利用計画の分野は、国、県、市町村とつながっている体系を生かすべき。
- ・ モノ、カネ、物理的存在としての人を捉えたものが多く、人の暮らし、活動といったような地域社会に関するものが不十分。

### (2)国土のモニタリングの実施と分析について

- ・ 東京への集中や地域間所得の分析など、過去の全総の課題にひきずられている感がある。より現代的課題について踏み込んだ分析が必要。
- ・ 人口・機能の集中・分散に関して、大都市圏と地方圏で、市町村にとっての都市圏の持つ意味が違うので、小規模都市での郊外シェアの延びのマイナスがコンパクト化を意味しているとは限らない。
- ・ 中山間地、小規模都市、中枢都市、大都市の関係から、今後の人口移動を分析することが、国土計画において条件不利地域対策や自立的な圏域を考える上で、ベースとなると思われる。
- ・ 圏域形成について時系列の動きをとれないか。岡山県の事例では、通勤通学による移動は30年間あまり変わっていないが、日常品購入のための移動等はより高次の中心都市に向かう傾向が顕著。
- ・ 地域経済とアジアとの関係について、もう少しクリアになる方法はないか。